

丸全昭和運輸株式会社  
2026年3月期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q 1.

配当性向 35%を目標としている中、今期約 32%と未達となっているが、増配をさらに加速させるという認識でよいのでしょうか？

A 1.

弊社は「安定した配当の継続」を基本方針としております。

第9次中期経営計画では、配当性向の目標を「中期経営計画期間3年間の平均で35%以上」と定めております。

今期の配当性向は32.3%で、目標にはまだ届いていないものの、前期比で40円の増配をしております。

今後も業績向上を図りつつ株主還元を強化してまいります。

そして設備投資・DX推進・人材育成などの成長投資とのバランスを考慮しながら、配当を決定していく方針です。

Q 2.

厳しい事業環境が継続しておりますが、注力分野、事業構造の見直しはありますでしょうか？

A 2.

中東情勢を含め、厳しい事業環境が継続しております。

ただし、弊社が注力している危険物の取扱などは、まだ成長分野であると捉えています。

中東情勢によるエチレン不足などは、化学品業界に大きな影響を及ぼしていますが、各社のBCP対応などで新たな製品の保管需要などが生まれてきています。

今期はそういった需要を取り込みながら、成長を続けていきたいと考えています。

Q 3.

2026年3月期、新規3PL案件の獲得が想定を下回る理由について教えてください。

A 3.

2026年3月期には、予定していた3PLの案件獲得が想定を下回りました。

大きな理由として、想定していた荷主様が3PLを導入する時期を延期したり、

検討していたが一旦白紙にして見直したいといった要望が複数あったことが影響しています。

こちらは今期も継続して取り組んで行く案件となっておりますので、2027年3月期には実績がでてくることを期待しています。

Q 4.

ROEの向上に向けて、レバレッジの活用は考えておりますか？

A 4.

昨年中国の子会社で減損損失を計上し、2025年3月期のROEは7.7%となりました。

今期は減損損失が解消し、また過去最高の当期利益となり2025年3月期はROEが

9.3%となりました。

今後も、利益率の向上、自己株の購入、配当の増加、設備投資の促進などによりROEの向上に努めていきます。

補足：資料33ページ「キャッシュフローアロケーション」記載の通り、外部調達については、M&Aなどにおいて活用を考えております。